

# 馬込Ⅰ遺跡・馬込Ⅱ遺跡・黒川山遺跡 発掘調査報告書

秋田市金足黒川地区における産業廃棄物処理  
場建設計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

株式会社 黒川産業  
秋田市教育委員会

## 調査の概要

### 調査に至るまでの経過

株式会社黒川産業（秋田市八橋新川向5-30 新川ビルC号 代表取締役 阿部隆好）は、秋田市金足黒川地内に産業廃棄物処理場（安定型）建設工事を計画した。しかし、産業廃棄物処理場搬入道路計画路線内に、馬込Ⅰ遺跡、馬込Ⅱ遺跡（秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書 1989年3月 秋田市教育委員会）が、存在していることから、秋田市教育委員会に範囲確認調査を依頼し、今後のことを検討することにした。

秋田市教育委員会は、平成3年5月、両遺跡に範囲確認調査を実施し、工事計画地内の遺跡の範囲を確認した。

これに対し、黒川産業は、搬入道路計画路線を一部修正し、馬込Ⅰ遺跡については、範囲確認調査で、遺構、遺物が確認されなかった地区を通過し、馬込Ⅱ遺跡については、遺跡外へ変更となった（図1）

しかし、この計画変更の結果、現段階では、埋蔵文化財が確認されていないが、地形的に再度の分布調査を必要とする地区があるため平成5年5月、試掘調査を実施した。その結果、一部、土壌、赤褐色土器等が確認され（黒川山遺跡）、調査区を拡張し、道路計画地内での遺跡の拡がりを確認し、調査を終えた。

### 調査時期と体制

#### ○馬込Ⅰ遺跡及び馬込Ⅱ遺跡

調査時期	平成3年5月
調査主体者	株式会社黒川産業
調査担当者	秋田市教育委員会
調査員	小松正夫 日野久 西谷隆 松下広博 (秋田市教育委員会文化振興課秋田城調査事務所)

#### ○黒川山遺跡

調査時期	平成6年5月11、12日
調査主体者	株式会社黒川産業

調査担当者 秋田市教育委員会  
調査員 石郷岡誠一 納谷信広 (秋田市教育委員会文化振興課)

#### 調査の方法と経過

馬込Ⅰ遺跡については、3 mグリットを、馬込Ⅱ遺跡、黒川山遺跡には、幅1 mのトレンチを数本設定し、調査を行った(図2~4)。

### 馬込Ⅰ遺跡

丘陵部西部の南向きの緩斜面に位置する。道路計画路線内に3 m×3 mのグリッドを東西2列に、合計10ヶ所設置した。東から3番目の北側のグリッドから赤褐色土器、須恵器が出土し、竪穴状遺構、土壌が確認されたため、南北方向に拡張して範囲を確認した。

#### 遺構と遺物

##### 1号竪穴状遺構

南北約2.6 m、東西約2.8 mの方形の竪穴状遺構であり、確認面からの深さは約30 cmで、ほぼ垂直に掘りこまれている。埋土は、上層には、焼土ブロックが、下層には鉄分が混入している。また中央部に長軸約1.5 mの楕円状に炭化物が堆積していた。

埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。第 図1は、壺形の須恵器の口縁部破片である。肩部を中心に自然軸(緑軸)が認められた。

##### 1号土壌

確認面からの深さ約40 cmの細長い土壌である。掘り下げた結果、4基の土壌が切りあげられていることが確認された。埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。いずれも小破片である。

#### 遺構外出土遺物

赤褐色土器、須恵器が出土した。割合は、赤褐色土器が、圧倒的に多い

が、焼成は不良でいずれも小破片である。

## 馬込Ⅱ遺跡

馬込Ⅰ遺跡より約300m東の、南向きの斜面上に位置する。幅1mのトレンチを南北方向に7本設定し、調査した。東から2本目のトレンチから赤褐色土器、須恵器が出土し、1号土壌、ピット群、1号溝跡が確認されたため、トレンチを拡張した。

### 1号土壌

長軸約1.6mの楕円状の土壌である。確認面からの深さは約10cmと浅い。埋土には、炭化物、焼土ブロックが混入していた。埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。第 図2は、赤褐色土器の坏である。焼成は不良で、土器表面は非常に脆い。ロクロ目が細かい。底部の切離しは回転糸切りであり、無調整である。

### 1号溝跡とピット群

1号溝跡は幅約2m、深さ約1mであるが、溝の底部は溝の掘り込み面の中央から東側にずれている。埋土からは、炭化物、焼土ブロックが混入していた。埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。

1号溝跡の埋土を掘り込む形でピット群が確認された。性格等は不明である。

### 遺構外出土遺物

赤褐色土器、須恵器が出土した。割合は、赤褐色土器が、圧倒的に多いが、焼成は不良でいずれも小破片である。

## 黒川山遺跡

馬込Ⅰ遺跡の東側約200mの丘陵上に位置する。幅1mのトレンチを南北方向に5本、東西方向に1本設定する。表土の堆積は非常に薄い。東から4番目の南北トレンチから土壌が確認され、赤褐色土器が出土したた

め、拡張し土壌を完掘するとともに、東側に隣接してトレンチを追加し、周囲に遺物の出土が認められないことを確認して調査を終えた。

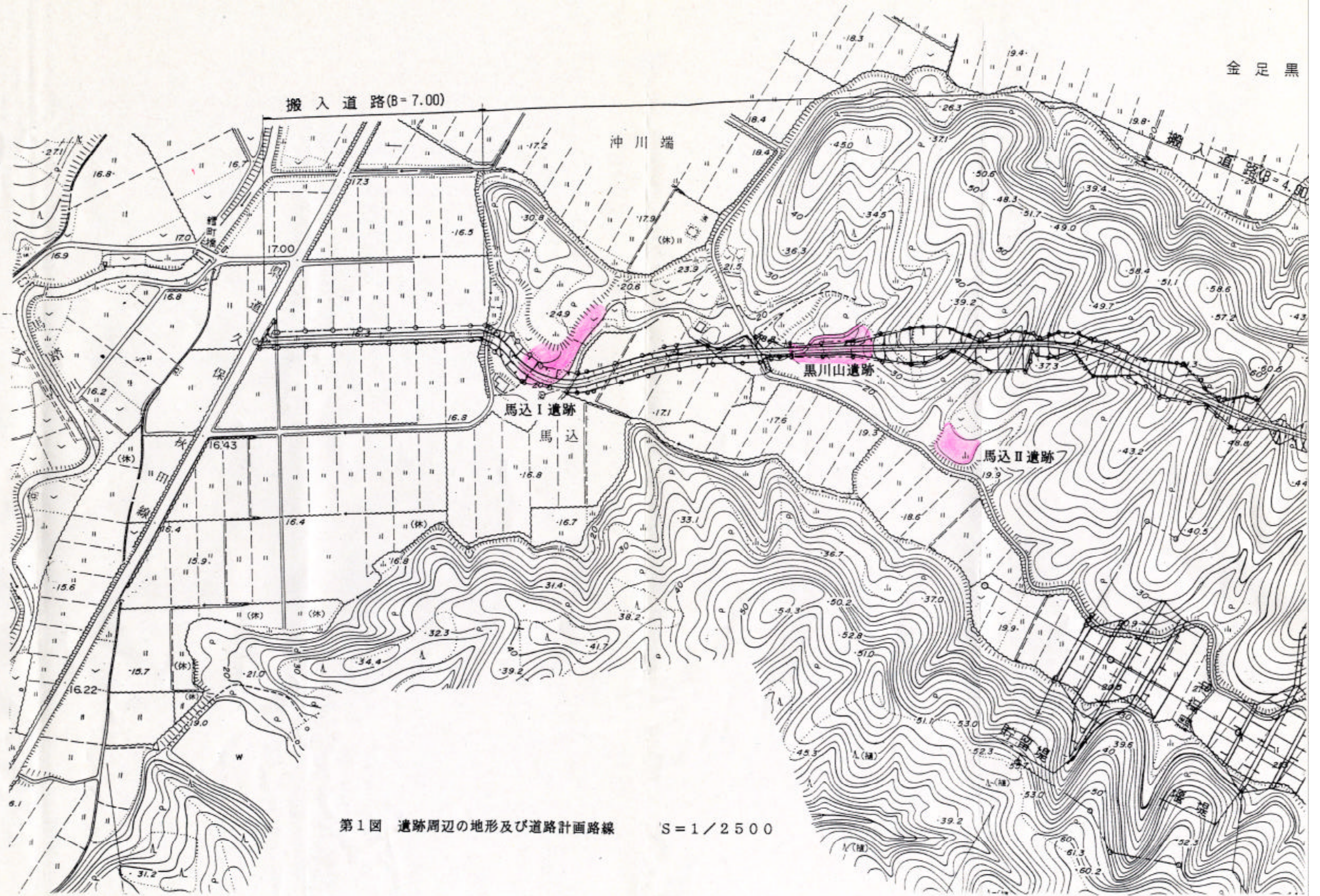
#### 1号土壌

長軸約2mの楕円状の土壌である。確認面からの深さは約30cmであり、埋土内には炭化物が面的に堆積していた。埋土からは、赤褐色土器、須恵器、磁器、フイゴの羽口、砥石等が出土している。赤褐色土器は大半が小破片であり、焼成は不良、表面の剥落が激しい。

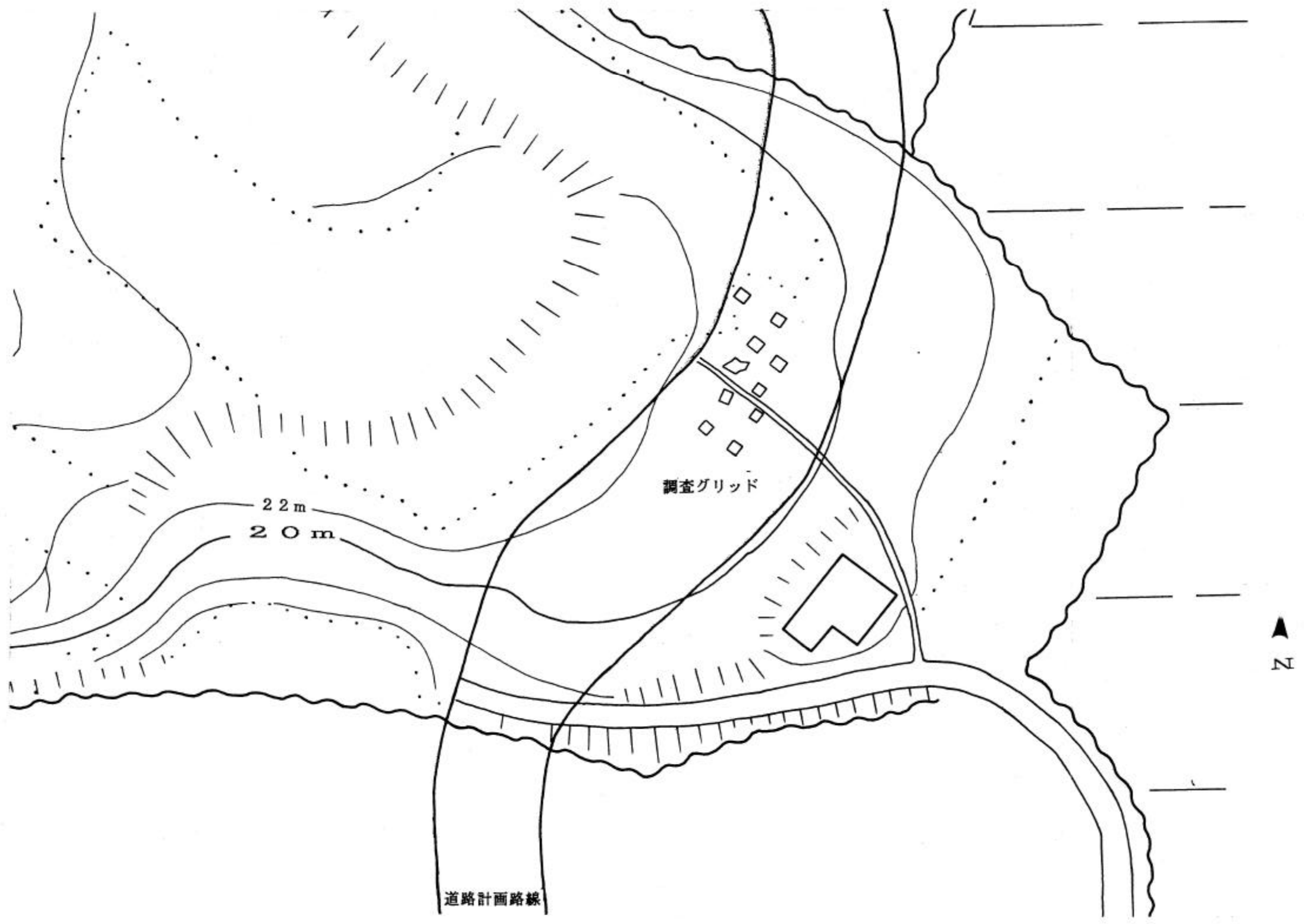
第10図の1は、台付の赤褐色土器の底部、2は赤褐色土器の坏底部である。ともに表面の剥落が激しい。3は染付の磁器、4は白磁の小破片である。ともに産地、年代等は不明である。5はフイゴの羽口の小破片、6は円形の砥石である。

遺構外からの遺物の出土は認められなかった。

馬込Ⅰ遺跡、馬込Ⅱ遺跡、黒川山遺跡ともに、調査対象面積が限定され、また、確認された遺構、遺物も少なく、遺跡の性格等は、明らかにできなかったが、遺物から、年代的には、古代を中心とした遺跡と考えられる。

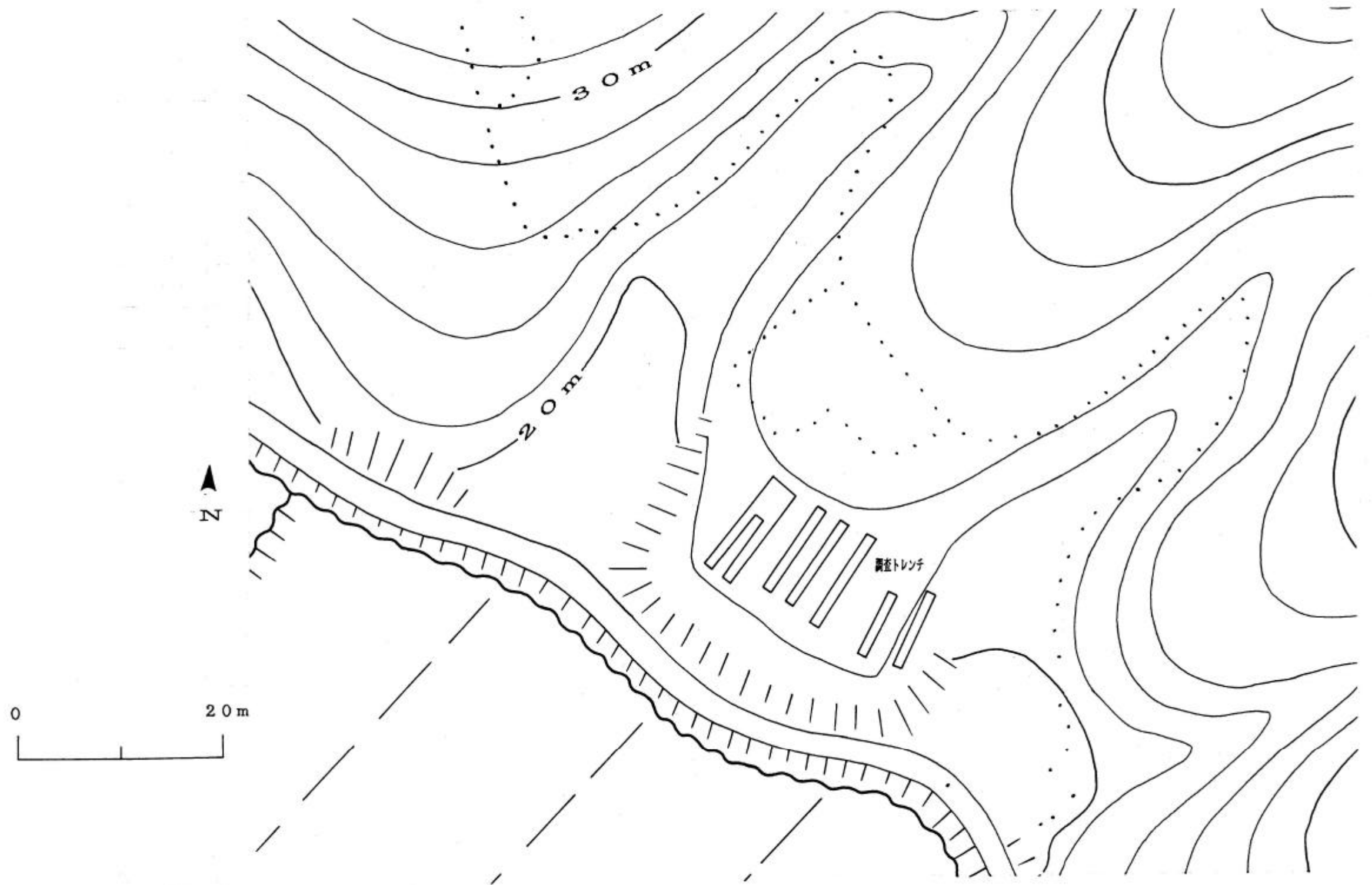


第1図 遺跡周辺の地形及び道路計画路線 S=1/2500



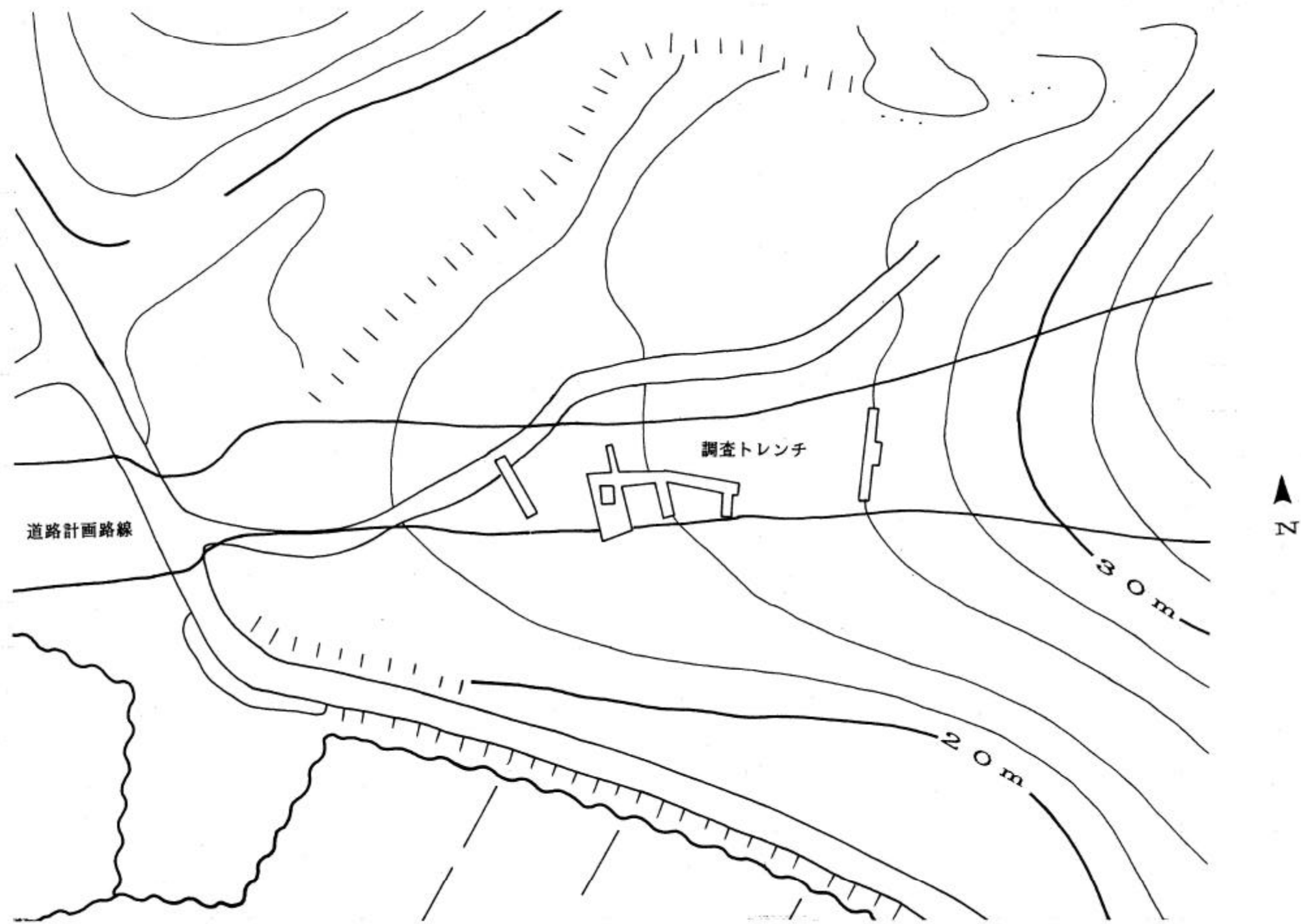
第2図 馬込I遺跡調査区設定図 S=1/400





第3図 馬込Ⅱ遺跡調査区設定図 S=1/400





道路計画路線

調査トレンチ

30m

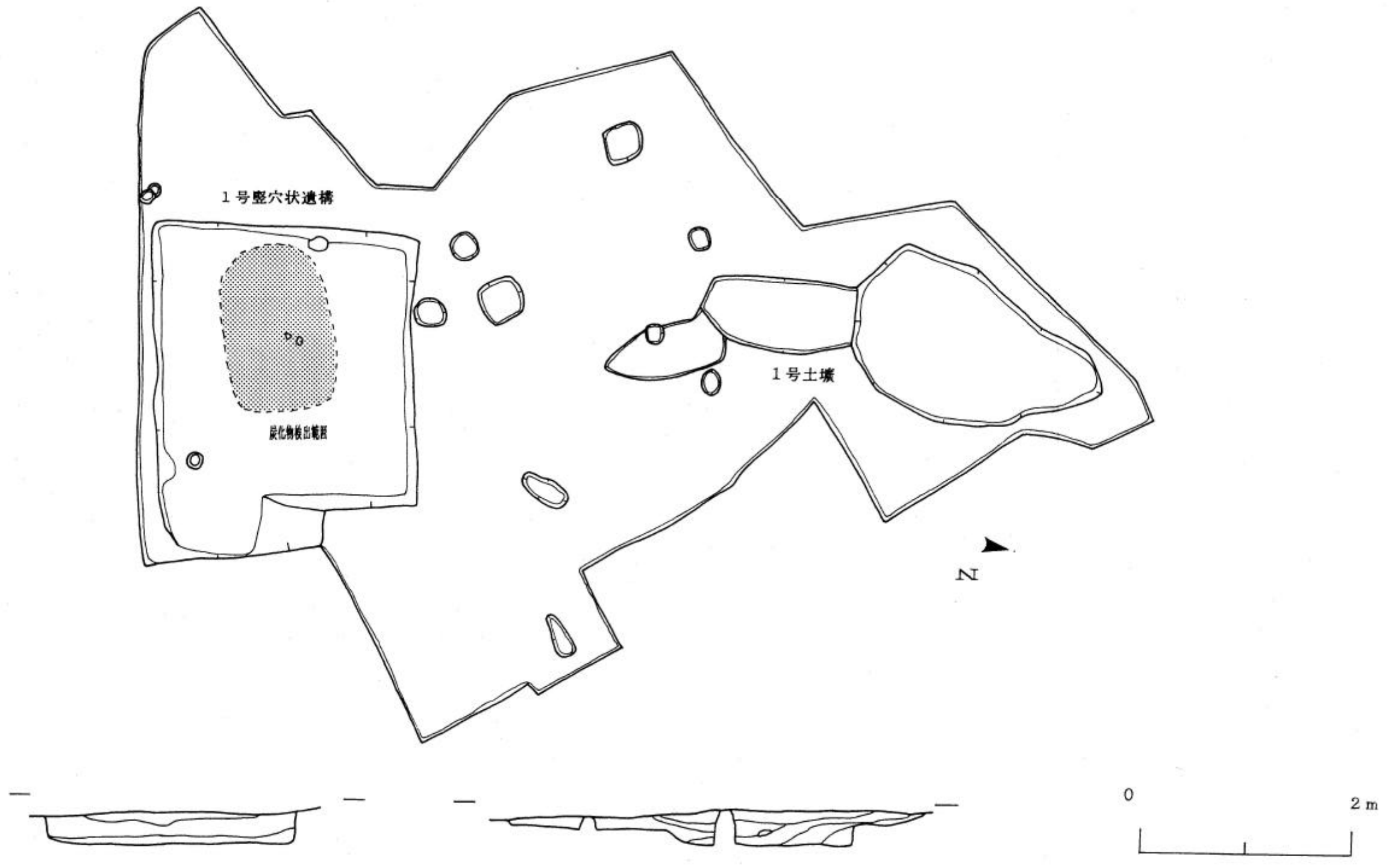
20m



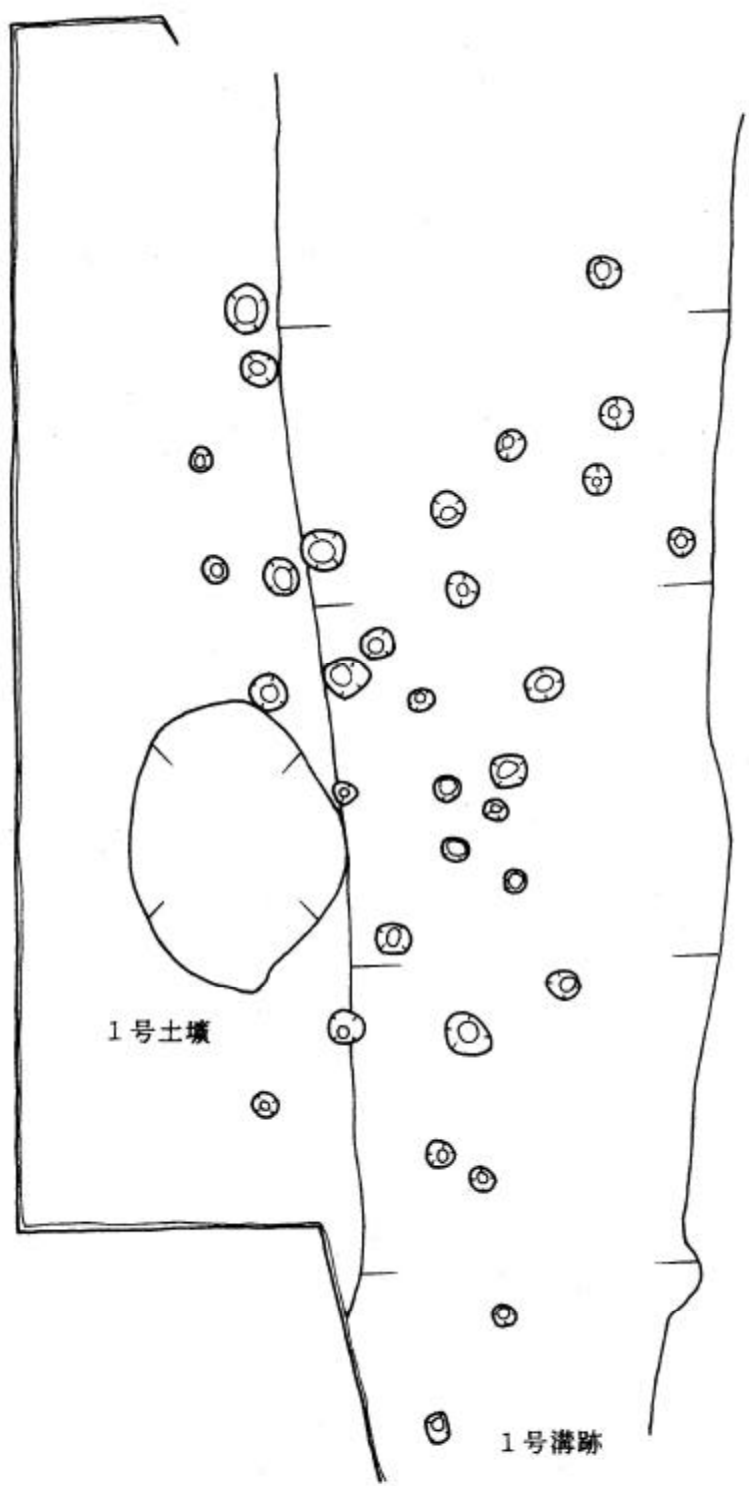
第4図 黒川山遺跡調査区設定図

S=1/400

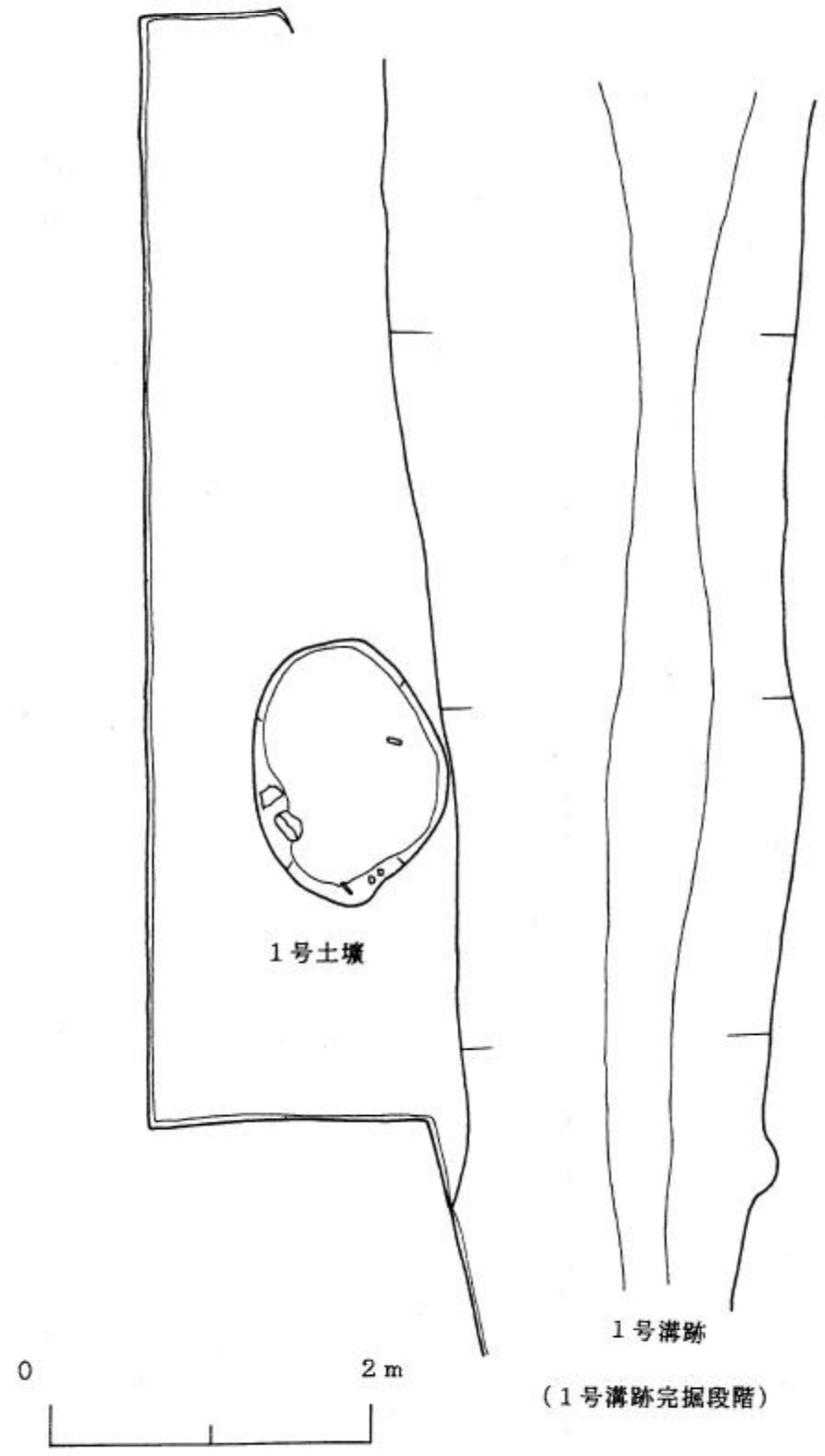




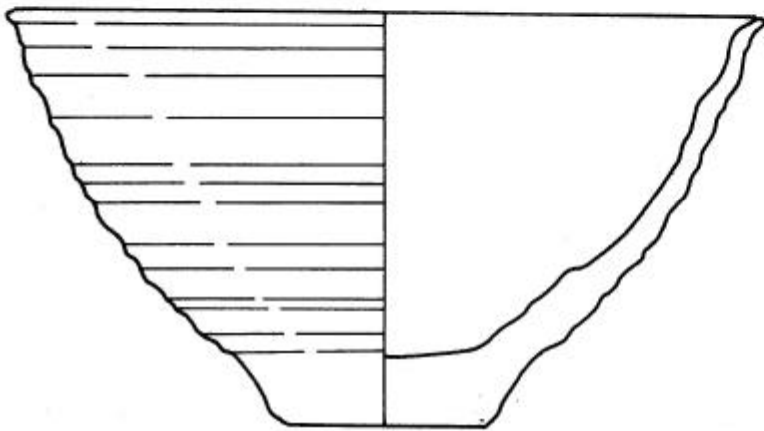
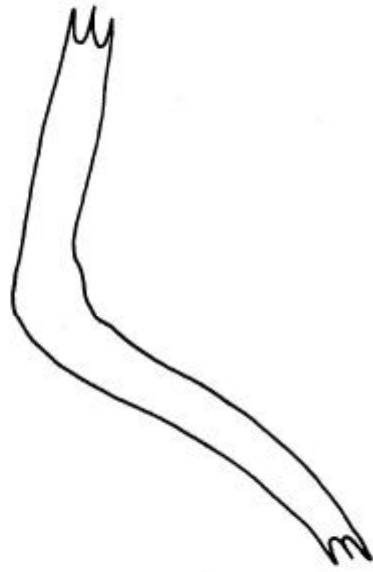
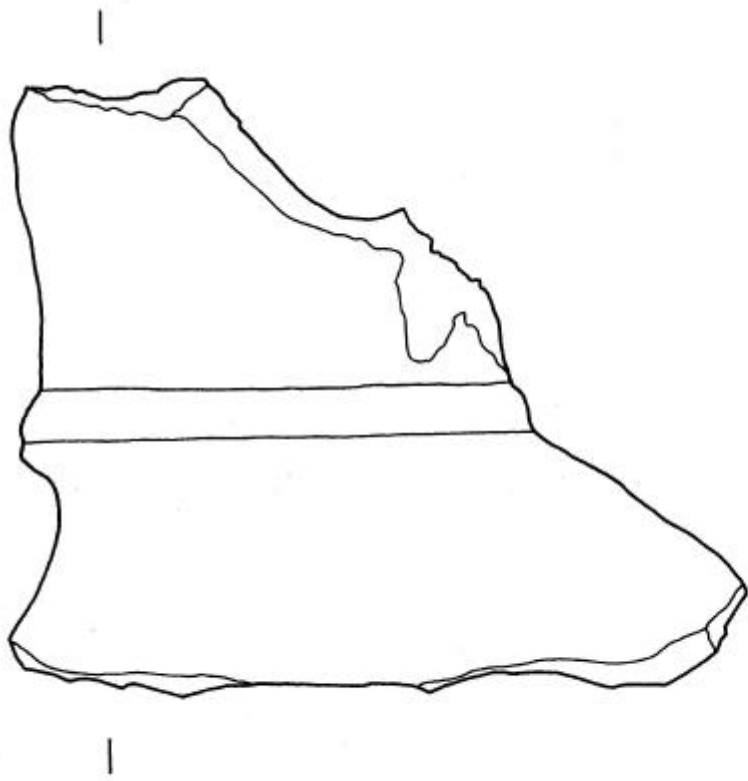
第5図 馬込I遺跡遺構配置図 S=1/40



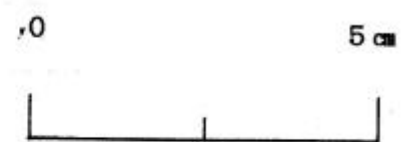
第6图 马込Ⅱ遗址遗构配置图 (1号沟迹检出段階) S = 1/40

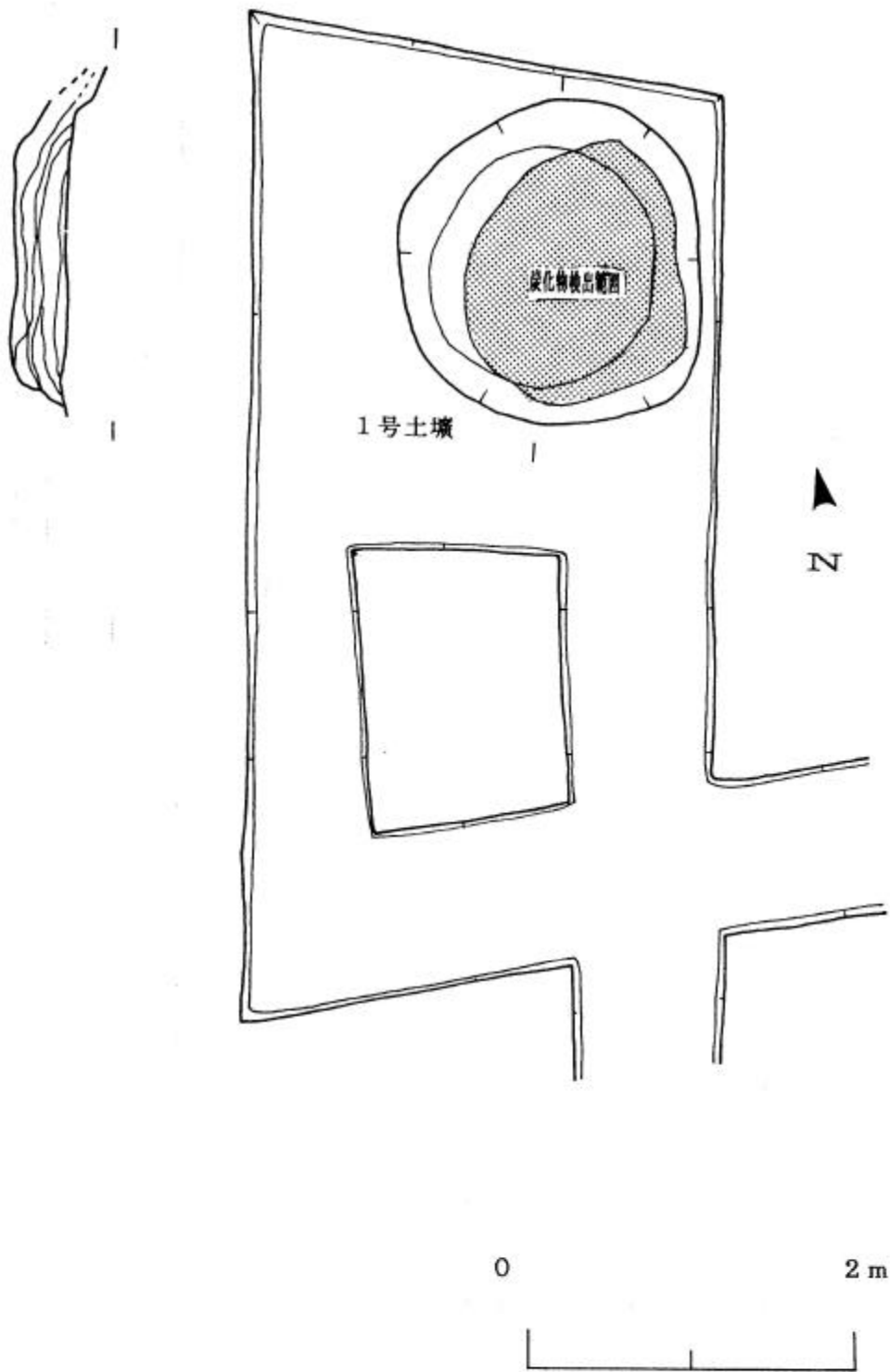


(1号沟迹完掘段階)



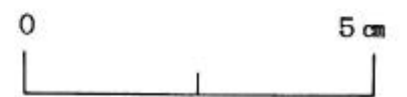
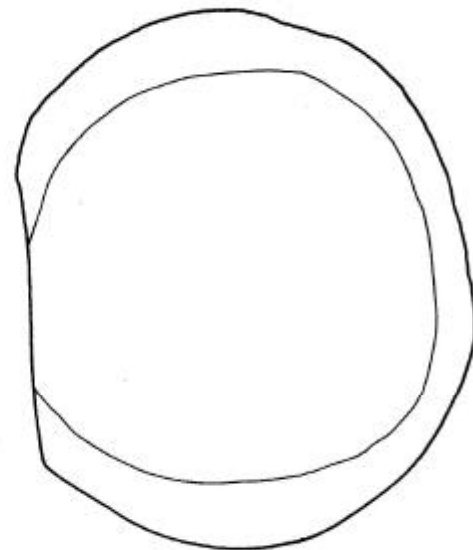
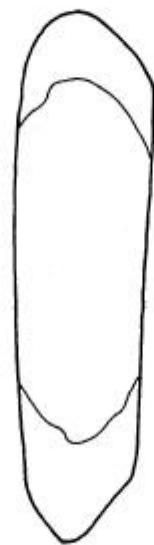
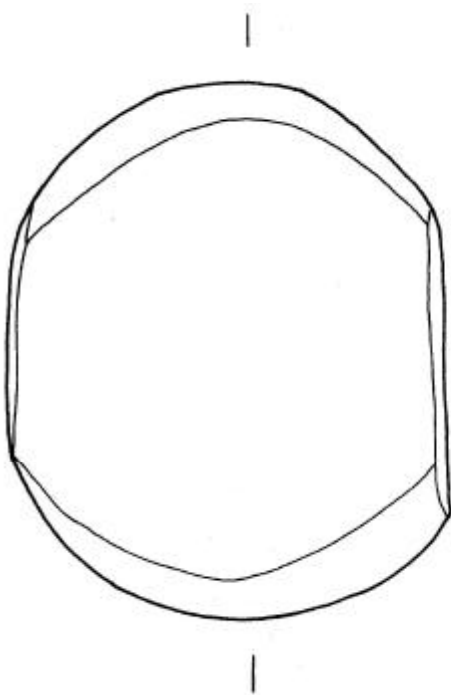
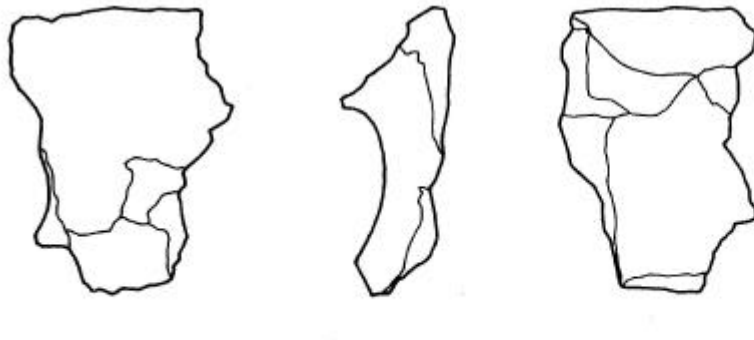
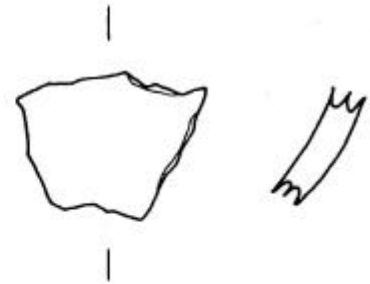
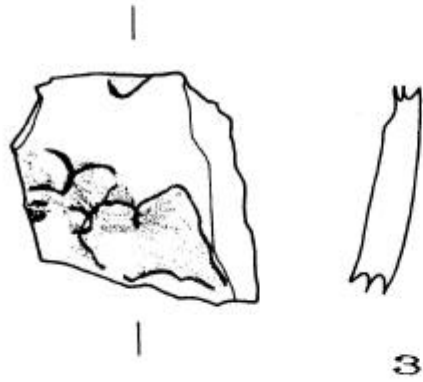
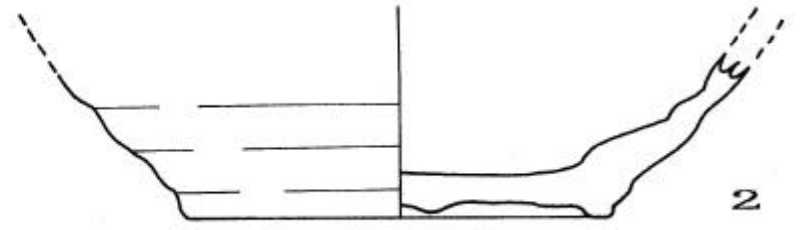
第7图 马込 I II 遗迹出土遗物 S = 1 / 1





第8図 黒川山遺跡遺構配置図

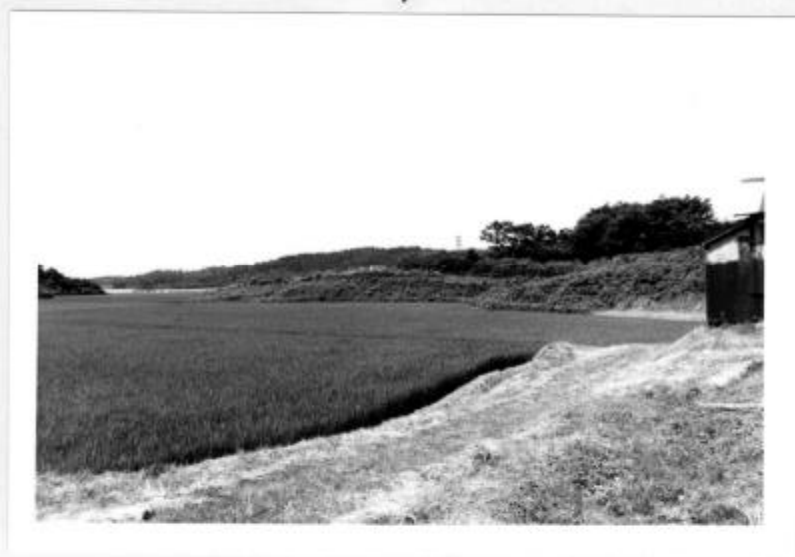
S = 1 / 40



第9図 黒川山遺跡1号土壇出土遺物 S=1/1



馬込 I・II 遺跡、黒川山遺跡遠景 (W→E)



馬込 I 遺跡近景 (E→W)



黒川山遺跡近景 (W→E)

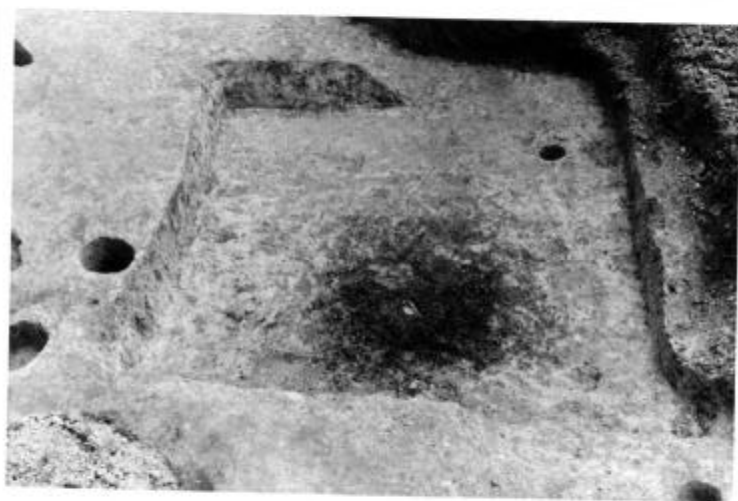


馬込 I 遺跡調査風景





馬込 I 遺跡完掘状況



馬込 I 遺跡竪穴上遺構



馬込Ⅱ遺跡調査区全景



馬込Ⅱ遺跡遺構検出状況



馬込Ⅱ遺跡遺構完掘状況



黒川山遺跡調査風景



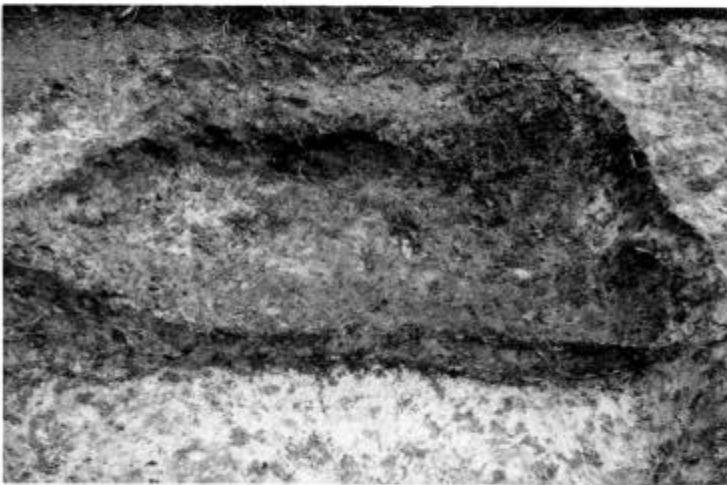
黒川山遺跡トレンチ (W→E)



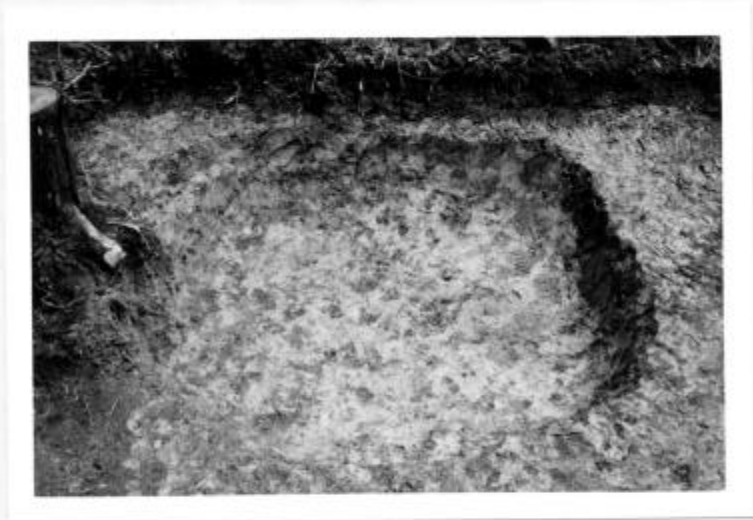
黒川山遺跡トレンチ (S→N)



黒川山遺跡1号土壌埋土断面



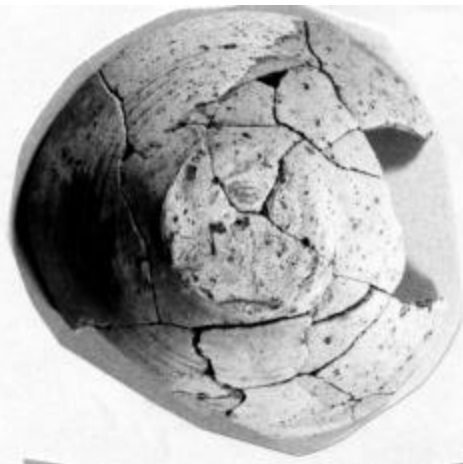
黒川山遺跡1号土壌炭化物検出状況



黒川山遺跡1号土壇完掘状況



7-1



7-2



9-1



9-2



9-3



9-4



9-5



9-6